平成16年（2004年）1月1日

廃棄物学会ニュース

No.78

The Japan Society of Waste Management Experts

廃棄物学会

2004年新年挨拶

パートナーシップの下での製品アセスメント

廃棄物学会会長　　高月　紘

生産者（事業者）が物を作り、消費者（市民）が使って、廃棄し、それを市町村（行政）が処理・処分するという物の流れの中で、従来の廃棄物対策では各主体（事業者、市民、行政）が自分の守備範囲内で廃棄物問題を考え、お互いに批判し、責任転嫁し合う構図であった。各主体がお互いに責任ある行動をとるよう監視しあうというある種の緊張関係は大切であるが、これから持続可能な循環型社会を形成しようとするとき、対立構造から、パートナーシップ（協働）の下で、廃棄物問題を解決する方向が求められよう。また、客観的にもそのような社会情勢になりつつあるようである。

このことを各主体ごとに事情と課題を整理してみると下記のようになろう。

①行政の事情と課題

ごみ処理サービスを担ってきた行政に、時代とともに従来型の焼却と埋立対応から、減量化、リサイクルという事業者や市民の理解や協力なしには進められない事業の展開が求められるようになったこと。また、地方自治体の財政ひっ迫で、とてもきめ細かなサービスはできない事情から、事業者や市民の主体的な取組みに頼らざるを得なくなったこと。その意味では行政には、事業者や市民が取り組む発生抑制や、リサイクル等のコーディネーター役になることが求められる訳であるが、行政職員の仕事を急にハード業務からソフト業務へ変えるのはなかなか難しい課題である。

②市民の事情と課題

市民活動としても従来型の消費者保護運動（抵抗運動）に加えてグリーンコンシューマー運動など積極的に環境配慮型製品を支える運動や自主的な取組みの中から政策提案型の運動などの幅広い活動展開が行われつつあること。その中で、市民の意見を反映させるべく行政や事業者の活動に積極的に参画する方向性も見えるが、一方では、環境意識の高い市民と全く無関心の市民との意識や行動の格差が広がるばかりで、なかなか環境意識のボトムアップがはかれない課題がある。

③事業者の事情と課題

廃棄物対策で、決定的役割を持っているのが事業者と言えるが、事業者も従来のように作った製品の後始末に無関心でおられない事情が生じつつある。すなわちBSE問題や原発の事故かくしなどで、事業者の企業倫理が社会的にも厳しい追及をうけつつあること。また、国際戦略上求められたとはいえ、多くの企業が環境マネージメントシステムを導入し、環境配慮型の製品づくりやリサイクルに取り組むようになってきたこと。さらに、各種リサイクル法が成立し、リサイクルを意識した製品づくりをせざるを得なくなったことなどが背景にある。

そこで、特に事業者側に期待したいのが、製品アセスメントである。製品アセスメントとは「製品が発生するであろう環境負荷を事前にLCA的評価し、環境負荷の少ない製品づくりしようとするコンセプト」である。具体的に言えば一般的にはリサイクルしやすい素材を使い、あとで解体・分解しやすい構造設計などが提案されているが、製品の環境負荷をもう少し広義に解釈し、たとえば、長寿命の製品とか、可能なかぎり有害物質を含まない製品とか、社会システムともからむが、レンタルやリースなど再使用性の製品づくりなども視野に入れた製品アセスメントがまさに、持続可能な社会にふさわしい廃棄物対策であろう。

いずれにせよこのような環境配慮型の製品が社会に受け入れられるためには、消費者が積極的にそれらの製品を支持し、行政も導入しやすい制度づくりなど社会システムを整備する必要がある。そこに真のパートナーシップが求められるのであるが、その前提はあくまでも情報の公開と情報の共有化による各主体間の信頼関係である。従来、企業秘密や内部資料との名のもとに、情報開示への大きな壁があったのであるが、こと環境問題については可能なかぎり、企業は製品成分の開示をすべきであり、行政も処理コストの透明化をはかるべきであり、市民もそれらのデータを解析し、適切な判断をできる能力をつける努力が求められている。

作者註：廃棄物による環境負荷を低減するためには上流対策が重要です

■□■□ 年会委員会 ■□■□■□

■□■□■□

■□ 選挙管理委員会 ■□■□■□■□■□

第８期役員選挙についてのお知らせ

廃棄物学会第 8 期役員（理事・監事）の選任につき、廃棄物学会会則及び廃棄物学会役員の選任に関する規程にもとづき、次の日程で選挙を行います。

◎告示：平成 16 年 1 月 31 日（土）
（廃棄物学会誌第 15 巻第 1 号並びに廃棄物学会事務局に告示します。）

◎立候補者の届出：
平成 16 年 1 月 31 日（土）～2 月 23 日（月）（必着）

◎投票用紙の発送：平成 16 年 3 月 1 日（月）

◎投票締め切り：平成 16 年 3 月 22 日（月）（必着）

◎開票：平成 16 年 3 月 23 日（火）

◎選挙結果の承認（新役員の決定）：平成 16 年度総会

※　立候補の届出及び候補者の推薦にあたっては、別紙「廃棄物学会第 8 期役員選挙立候補届・推薦届」を使用して下さい。

※　立候補者及び推薦人は、選挙権及び被選挙権を有する正会員（平成 15 年 9 月 30 日までに平成 15 年度会費を納入した正会員）に限ります。

韓国廃棄物学会発表論文の募集

2004 年度韓国廃棄物学会研究発表会が、2004 年 5 月中旬韓国・ソウル市で開催され、例年どおり国際セッションが設けられます。この国際セッションは、日韓廃棄物学会の交流事業の一環として行われ、毎年日本からも多くの会員が参加し、論文を発表しています。みなさまの参加を期待いたします。

発表論文　　英文で A4 版用紙 3 枚以内
発表方法　　ポスター
提出期日　　2004 年 3 月 31 日(水)
提出・問合せ先　　廃棄物学会事務局（下記参照）

＝ 事務局年末年始休暇 ＝
平成 15 年 12 月 27 日（土）～平成 16 年 1 月 4 日(日)

会 員 状 況	H15.11.30 現在 （　）内は、H15.4.1 以降の増減
正 会 員	3,682（126）
学生会員	335（ 68）
外国人会員（DM）	24（ 6）
公益会員	114（ 2）
賛助会員	192（-14）
計	4,351（192）

注）外国人会員(DM)は、廃棄物学会外国人等会員規程第 4 条に定める会員を示す。

廃棄物学会ニュース No.78　　平成 16 年 1 月 1 日発行
廃棄物学会　〒108-0014 東京都港区芝 5-1-9 豊前屋ビル 5F
Tel.03-3769-5099　Fax.03-3769-1492
http://www.jswme.gr.jp
古紙配合率 100%再生紙を使用しています

JSWME Newsletter No.47 (January)発行のお知らせ

下記内容の英文ニューズレター47 号を 1 月上旬に発行予定です。

※JSWME NEWSLETTER は 41 号より電子配信のみとなっています。最新号、バックナンバーは学会ホームページ（http://www.jswme.gr.jp）から入手できます。

主な内容
・会長新年挨拶
・廃棄物分野の ODA：ベル収集によるごみ収集の改善（スリランカ）
・PC リサイクル：家庭用 PC リサイクル制度の開始
・自治体の動き：横須賀市リサイクルプラザ「アイクル」
・廃棄物学会の活動：EPR に関する日韓シンポジウム、国際セッション報告

Contents of No.47

1 New Year Greetings from JSWME President
2 Japan's ODA on SWM - Waste Collection Improvement by Bell Collection with Public Cooperation in Sri Lanka -
3 Domestic PC Recycle System's started
4 Municipalities on the Move: Recycle Plaza "Aicle", Yokosuka City
5 Contents of Journal of the JSWME, Vol.14, No.5
Cartoon by High Moon: "A Seminar for the Upper Classes"

環境資源工学会主催、廃棄物学会協賛
環境工学会シンポジウムリサイクル設計と分離精製技術
第８回「ポスト家電リサイクルの現状と分離精製技術」（仮題）

開催日時：平成 16 年 2 月 19 日(木)　9:00～
開催場所：住友金属鉱山ビル大会議室（東京都）
参 加 費：8,000 円
申込締切：平成 16 年 2 月 9 日（月）
連 絡 先：環境資源工学会事務局
TEL：075-415-3661、FAX：075-415-3662
E-mail ：rpsj_sympo@nacos.com

☆☆事務局だより☆☆

新年あけましておめでとうございます。今年も廃棄物学会をよろしくお願い致します。

今年はもうアテネオリンピックの年です。シドニーオリンピックがつい先日だったように感じるのは私だけでしょうか。このわずか 4 年の間に、廃棄物やリサイクルを取り巻く状況は大きく変わりました。今も新しい仕組みの創設に向けて様々な検討が進められています。

最近、人々の廃棄物に対する意識が随分変わったと感じませんか。少し前までのように無関心ではいられないという雰囲気が出来つつあるように思えます。これは、家電、パソコン、自動車など私たちに身近な製品を廃棄する際のルールが整備されてきたことと無関係ではないでしょう。

より多くの人にこれらのルールを知ってもらう。よりわかりやすいルールに修正する。廃棄物に早くから携わってきた私たちの役目だと思います。

4 年後の北京オリンピックを迎える頃にはどのような世の中になっているでしょうか。目標は何か。それに近づけるために今年何をすべきか。皆さんで考えてみませんか。　（香川智紀　記）